



平成30年度 光が丘第二中学校が目指すこと

2018.4.13

練馬区立光が丘第二中学校
校長 中山 徹

1 めざす学校経営(学校像)

○「生徒1人1人に寄り添った温かみのある指導・支援」を進める学校をつくる

→生徒理解を根底に据え、授業、学級活動、生徒会活動、学校行事、部活動等の中できめ細かな指導・支援を推進します。

→生徒1人1人が「学ぶ楽しさ・わかる喜び」、「自己肯定感・自己有用感」、そして「所属感・達成感」を感じながら、個性・能力を発揮し日々の活動に取り組んでいけるようにしていきます。

○地域に愛され、地域と共に歩む学校をつくる

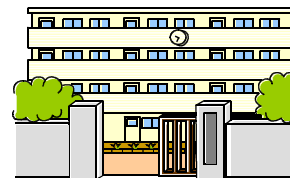
→学校を地域に開き、また関係小学校や地域とのつながりを重視し、生徒・保護者・地域の声に真摯に耳を傾け信頼を得ながら、それらを教育活動の発展に活かしていきます。そして、生徒たちが「母校愛」をもって生き生きと学校生活を送れるようにしていきます。



「光が丘第二中学校でよかった」
と生徒・保護者が実感できる学校をつくる

〈本校の教育目標〉

- よく考える
- 協力を助け合う
- 進んで働く
- 心身を鍛える



2 平成30年度の重点目標・方策

(1) 質の高い教育の提供

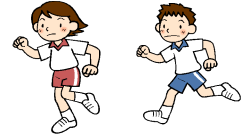
①学力の定着・向上(授業の充実、学習指導の工夫など)

- ・各教科等において評価基準に対応する基礎的・基本的な知識技能を生徒に習得させる。
- ・問題解決学習、体験学習、実験・観察等の多様な学習方法を組み合わせた指導を推進し、主体的に取り組む態度や思考力、判断力、表現力を育成する。
- ・夏季休業中や放課後などに学習教室を実施し、個に応じた学習指導を推進する。
- ・数学及び英語において、課題や習熟の程度に応じた少人数授業を実施する。
- ・総合的な学習の時間において、言語活動を重視し、思考力・判断力・表現力を育成する。
- ・土曜授業を年間8日行い、また開校記念日、都民の日を授業日として授業時間数を確保していく。
- ・授業等でのICT機器の活用を積極的に図り、その効果を検証しながら、ICT環境の充実を図る。

②豊かな心の育成(道徳、教育相談、生活指導、進路指導、特別活動等の充実)

- ・道徳授業の時数を十分に確保し計画的に指導を進めていく。また、道徳指導に関する校内研修会を実施し、教員の指導力向上を図る。

- ・教育相談を年2回設定する、生徒・保護者からの相談に丁寧かつ迅速に対応できるようにする。
- ・学校生活に関するアンケートを年3回実施し、いじめ防止に効果的に活用する。
- ・小中一貫教育実践校として、小中交流会、合同あいさつ運動等を実施し生徒の主体的な生活態度を育む。
- ・生徒個人日誌（『わすれないぞう』等）の定着化を図り、生徒理解、いじめ等の未然防止に活用していく。
- ・いじめ防止特別委員会を中心として、生徒に関する情報交換をきめ細かく進め、実態把握・対応を進める。
- ・生徒会を中心に、生徒会朝礼等を活用した「いじめ防止」の取組を推進する。SNSに関する「光が丘二中ルール」の周知徹底を図る。
- ・「時間を守る」「挨拶」「返事」「言葉づかい」などの基本的な生活習慣、授業規律等の指導については教職員の共通理解・共通実践を進め、落ち着いた学習・生活環境づくりを進める。
- ・キャリア教育を計画的に推進する。職業調べ、職場体験学習、マナー教室などの取組を充実させ、生徒に将来や進路について考えさせる機会を設けていく。
- ・特に3年生の進学等の指導については、保護者との連携を十分に図りながら、計画的に、そして丁寧に進めていく。
- ・生徒会活動や運動会、合唱コンクール、校外学習などの行事、修学旅行、スキー移動教室、臨海学校といった宿泊行事を、生徒の成長を図る重要な機会として位置づけ、生徒の主体的な活動を十分引きだしながら、達成感・成就感を与え、学校生活に対する意欲、将来への意欲を育んでいく。
- ・部活動も生徒の成長を図る重要な場として位置づけ、充実を図る。

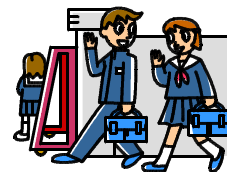


③健康な体づくり（保健指導、体力向上指導、食育等の充実）

- ・定期健康診断、身体計測・体力測定を計画的に進め、生徒の実態を把握し指導に活用する。
- ・保健体育の授業、体育的行事、部活動等を通して、生徒の体力向上に対する関心・意欲を高めさせ、基礎体力の向上を図る。また、オリンピック・パラリンピック教育の取組を通して、幅広くスポーツへの関心を高めるとともに、障害者理解を推進する。
- ・学校保健委員会を実施し、校医・学校薬剤師などの指導・助言に基づいて、課題や改善点を明確にして、日常の健康指導に生かす。
- ・食物アレルギー対応については、栄養士が中心となって各学年教員と連携しながら、関係生徒への対応を適切に進める。
- ・生徒の食生活への関心を高めさせるために、栄養士を中核とした食育に関する指導を計画的に推進する。

④校内環境整備（学習環境づくり）

- ・校内美化を徹底し、生徒・教職員が気持ちよく一日を過ごせる校内環境を整備していく。
- ・校舎の設備を有効に活かして、各教科、部活動等の生徒の作品、成果物などを校内に展示し、学習成果を共感できる環境づくりを進める。
- ・司書教諭及び学校図書管理員を中心とした図書館運営を活性化し、ラーニングゾーンの役割を構築する。



(2) 特別支援教育の充実

①特別な配慮を要する生徒への指導の充実

- ・必要に応じて個別指導計画を作成し、それに基づき該当生徒の障害の程度に対応した指導方法を工夫・改善していく。

②校内支援委員会の充実、スクールカウンセラー・心のふれあい相談員等との連携強化

- ・特別支援教育コーディネーターを中心とした校内支援委員会を毎週火曜日に実施し、組織的な対応を推進していく。
- ・校内支援委員会の中で、特別な支援を必要とする生徒の指導方法の検討を適宜進め、スクールカウンセラー、心のふれあい相談員と緊密に連携した指導を行う。

③特別支援教室（平成31年度本校内に設置）開設に向けての準備

- ・平成31年度に本校内に設置される特別支援教室について、練馬区教育委員会学務課の指導、支援受けながら、校内支援委員会を中心に教室整備、教具等の準備を進めていく。

(3)小中一貫教育の推進

①小中教職員の相互理解の推進、小中一貫教育の基盤固め

- ・年2回の校区別協議会を活用し、児童生徒、生活指導等に関する情報交換、教科指導に関する意見交換等を積極的に図るとともに、より有効な児童生徒交流のあり方について協議していく。

②児童・生徒の交流活動の実施、さらなる充実

- ・小学生による中学校訪問（授業見学）、小中合同あいさつ運動、中学生による小学校児童への学習指導体験（リトルティーチャー）、小学生による中学校合唱コンクール練習見学、小学生による中学校生徒海外派遣報告会見学、中学生による「光が丘春の風小わくわくフェスタ」への参加などを今年度も実施する。
- ・小学生との様々な交流活動を通して、中学生としての自覚や意識を高めるとともに、自己肯定感、自己有用感の醸成等を積極的に図る。

(4) 信頼される学校づくり



①安全教育の推進

- ・避難訓練、防災訓練を計画的に実施する。また、首都直下型地震等に備えた生徒の引き渡し訓練を実施する。

②避難拠点としての学校の役割明確化、練馬区・地域との連携

- ・避難拠点として活動については、練馬区防災課、避難拠点運営連絡会、地元自治会等とも連絡を取り合いながら学校の役割を明確にしていく。避難拠点訓練への生徒の参加についても、要請があった場合は積極的に模索する。

③地域に開かれた学校づくり

- ・学校だより、学年だよりなどを定期的に発行し、指導方針、生徒の様子等を積極的に伝えていく。
- ・学校ホームページの更新回数を増やし、更なる充実をめざす。
- ・授業公開を年間20日実施する。また、道徳授業地区公開講座、セーフティ教室、情報モラル教室、学校評議員会などを通して、保護者・地域との意見交換、情報交換を積極的に進める。
- ・地域行事、防災訓練等への教職員の積極的な参加を促す。
- ・「保護者と教職員の会」との連携を進め、保護者ととともに学校の活動を充実させながら、生徒たちを見守り支えていく体制をつくる。

④（信頼される学校づくりの基盤としての）サービスの厳正、教職員研修の推進等

- ・個人情報、情報セキュリティの管理を徹底する。
- ・日々厳正なサービス管理を行いサービス事故「0」としていく。
- ・体罰、不適切な指導についてはアンケートや面談等で実態把握を行い適切な対応を図る。
- ・学校予算の計画的、効率的な執行を進める。
- ・学校全体で組織的に人材作成に取り組み、OJT（校内における人材育成）を進める。
- ・区教委主催の研修会、練馬区中学校教育研究会主催の研究会等に積極的に参加する。